

6. 事業の概況（平成 29 年度）

●事業実績

（1）信用事業

組合員・利用者のニーズに沿った金融商品の提案と営農・経済部門との連携により農業金融機能の強化に取り組みました。

（2）共済事業

組合員・利用者の皆様のニーズに合わせた様々な保障提供と 3Q 訪問活動の継続実施による「ひと・いえ・くるまの総合保障」を通じた安全・安心の提供、「ベビーサイン体験教室」による親子の絆づくり、「高齢者交通安全教室」による交通安全意識の啓発等、共済事業と地域貢献活動を通じて地域との絆を強化し、豊かで安心して暮らせる環境づくりに取り組みました。

（3）購買事業

JA 自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」に向け、営農振興センターを核に省力化技術・資材等の提案や情報提供を通じて、生産農家のトータルコスト低減支援に努めました。また、安全・安心な地場農産物等の提供、利用者ニーズに沿ったサービス・イベントを実施し、地域のくらしに密着した生活資材の提供に取り組みました。

（4）販売・倉庫・加工・利用事業

米については、田植え時期以降、順調に生育しましたが、7 月の高温少雨、8 月の日照不足により、作柄は作況指数で県平均、中勢地区ともに 95 のやや不良となりました。品質は、天候不順により、乳白粒の発生が多く、前年に比べ大きく低下しました。全集荷量は 88,500 俵、水稻種子は 47 t の実績となりました。管内の米の 1 等比率は 23%（県内 36%）でした。

夏野菜は、空梅雨より初期生育が遅れたことで出荷量が安定しませんでした。また、新たな振興作物として「ズッキーニ」の生産振興に取り組みました。（生産者 19 名）

秋冬野菜は、10 月に 2 度の台風襲来による被害と生育初期の日照不足により生育が遅れたことで、出荷量が減少しました。菌茸類は需要の高い秋冬期の安定供給に努めました。

果実は、結実・肥大期の天候が不安定であったため、小玉果傾向となり出荷量が減少しました。販売環境は全国的に数量が少ないことにより良好で、価格も前年を上回りました。

茶については、生産履歴記帳の実践と徹底した茶工場の生産管理による「安全・安心な伊勢茶づくり」に取り組みました。全国的に非常に厳しい販売情勢の中、一番茶は前年に対し数量 94%・単価 107%でした。二番茶は数量 109%・単価 119%、秋番茶は数量 77%・単価 109%でした。

直売では、きつする黒部での季節に応じた会員参加型イベント、都市圏の物産展への出店、きつする食堂における行政及びメディア企画への積極的な参加により、県内外の消費者に松阪産農産物を広く PR しました。

その結果、販売品販売高は、3,231 百万円で、その内訳は、米麦・豆類が 1,642 百万円、野菜・花類が 138 百万円、果実類が 203 百万円、菌茸類が 64 百万円、畜産が 290 百万円、茶が 268 百万円、直売が 622 百万円となりました。

倉庫については、米倉庫の集約化を図るとともに、低温倉庫への集約保管を実施しました。

育苗センターにおいて水稻苗 74,000 箱、野菜苗 3,700 箱を供給しました。また、水稻育苗では、環境に配慮した温湯消毒を実施しました。

東部カントリーエレベーターでは、米 6,100 俵、麦 26,900 俵、ライスセンターでは、米 8,200 俵、麦 19,400 俵を取り扱いました。また、飯高ライスセンターでは、麦種子 1,900 俵を取り扱いました。

(5) 指導事業

営農指導は、経営所得安定対策において、加入対象農家に対し、加入申請及び交付申請等を支援しました。平成 31 年から始まる収入保険制度について、ナラシ対策加入者を対象とした説明会等を通じて周知を行いました。「松阪市農業再生協議会」では、行政機関と連携・協力し、米・麦・大豆の生産振興、担い手対策、農地保全に向けた取り組みを行いました。管内の麦の作付は 1,055ha、大豆作付は 994ha となりました。安全・安心な農畜産物を供給するため、共販品目の生産履歴システムを活用した栽培履歴記帳の実践と GAP（農業生産工程管理）の基礎となるチェックシートを実施しました。

生活指導は、JA 松阪女性組織連絡協議会総会に 240 名が参加し、会員同士の親睦を深めるとともに、女性組織活動への参加意識を高めました。また、小林良正氏を講師に招き、「感謝の心」をテーマに記念講演を行いました。女性組織代表役員と JA 役員との「新春懇話会」を開催し、「JA 事業についての学習会」をテーマに対話を行いました。きつする生気活気倶楽部では、各支部で子ども達とともに野菜の定植・収穫等の食農体験や、ナデシコやヒマワリを育て地域景観を良くする活動を行いました。また、年 2 回研修会を開催し、野菜栽培技術の向上を図るとともに、会員相互の交流を深めました。

●損益の状況等の総括

決算の内容は、経常利益で 322,069 千円、当期剰余金で 114,631 千円となりました。

●対処すべき重要な課題

1. 「多彩は農業」を維持・拡大する改革の実践
 - ・ 農業者所得の向上に向けた取り組み
 - ・ 担い手育成支援に向けた取り組み
 - ・ 相続・事業承継支援に向けた取り組み
2. 協同組合活動の実践による「元気な地域」づくり
 - ・ 地域支援活動に向けた取り組み
3. 環境変化を踏まえた組織経営基盤の強化
 - ・ 組合員活動促進に向けた取り組み
 - ・ 人財育成に向けた取り組み
 - ・ 健全経営の維持と確立に向けた取り組み

7. 地域貢献情報

●全般的事項

当組合は、松阪市（平成 16 年 12 月 31 日現在における一志郡嬉野町・三雲町を除く）を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

当組合の資金は、その大半が組合員の皆さまなどからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当組合は、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、JA の総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助けあいを通じた社会貢献に努めています。

組合員数	13,865 人	出資金	1,529,475 千円
------	----------	-----	--------------